

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄					全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							3.8
Q1 室内環境							4.0
1 音環境			-	0.15	2.9	1.00	2.9
1.1 室内騒音レベル		—	-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音		—	-	-	2.9	0.50	
1	開口部遮音性能	—	-	-	3.0	0.30	
2	界壁遮音性能	住居部分:Dr-50	-	-	4.0	0.30	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	-	-	1.0	0.20	
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	—	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		—	-	-	-	-	
2 温熱環境			-	0.35	5.0	1.00	5.0
2.1 室温制御		—	-	-	5.0	1.00	
1	室温	—	-	-	-	-	
2	外皮性能	日本住宅性の表示基準「5-1断熱等性能等級4を超える」	-	-	5.0	1.00	
3	ゾーン別制御性	—	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		—	-	-	-	-	
2.3 空調方式		—	-	-	-	-	
3 光・視環境			-	0.25	3.0	1.00	3.0
3.1 昼光利用		—	-	-	3.0	0.50	
1	昼光率	—	-	-	3.0	0.50	
2	方位別開口	—	-	-	3.0	0.30	
3	昼光利用設備	—	-	-	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		—	-	-	3.0	0.50	
1	昼光制御	—	-	-	3.0	1.00	
3.3 照度		—	-	-	-	-	
3.4 照明制御		—	-	-	-	-	
4 空気質環境			5.0	0.25	4.3	1.00	4.4
4.1 発生源対策		—	5.0	1.00	5.0	0.63	
1	化学汚染物質	建築材料はJIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気		—	-	-	3.3	0.38	
1	換気量	—	-	-	3.0	0.33	
2	自然換気性能	居室面積の1/8以上の開閉可能な窓の確保	-	-	4.0	0.33	
3	取り入れ外気への配慮	—	-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理		—	-	-	-	-	
1	CO ₂ の監視	—	-	-	-	-	
2	喫煙の制御	—	-	-	-	-	
Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.1
1 機能性			3.7	0.40	3.2	1.00	3.2
1.1 機能性・使いやすさ		—	4.0	0.40	3.0	0.60	
1	広さ・収納性	—	-	-	-	-	
2	高度情報通信設備対応	—	-	-	3.0	1.00	
3	バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		—	4.0	0.30	3.5	0.40	
1	広さ感・景観	—	-	-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース	—	-	-	-	-	
3	内装計画	・内装の段階でコンセプトを反映させる取り組み ・建物に求められている機能が明確化 ・インテリアパースによる内装計画の事前検討	4.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理		—	3.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計	—	3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保	—	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		—	3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		—	3.3	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準 劣化の軽減に関する事等 等級3相当	5.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:ビニール床シート、畳(20年)、壁:ビニルクロス貼(20年)、天井:ビニルクロス(30年)	4.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水はポリエチレン管(B)、排水(雑・汚水)、通気管は塩ビライニング銅管(C)	4.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	—	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		—	3.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	—	3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	—	3.0	0.20	-	-	
3	電気設備	—	3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	—	3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	ケーブルTVの引き込みによる災害情報入手および通信手段の多様化、精密機械の地下空間の設置を避けている	4.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
	3.1 空間のゆとり			-	-	3.0	0.50	
	1	階高のゆとり	—	-	-	3.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	—	-	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		—	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	4.4
1	生物環境の保全と創出		生物環境の保全と創出に関して配慮されており、比較的多くの取り組みが行われている 外構緑化指数:20%以上	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮		周辺のまちなみや景観に対して充実した取り組みが行われている	5.0	0.40	-	-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性・アメニティへの配慮に関して充実した取り組みが行われている	5.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	4.1
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	4.6
1	建物外皮の熱負荷抑制		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を超える水準の断熱性能を満たす	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		効率のよい設備機器を導入	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			4.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	住戸プランで想定される生活スタイルに適した説明を行う計画	5.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.9
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	節水型水栓と節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床:グリーン購入法、床・エクステリア:エコマーク商品を採用	5.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	持続可能な森林から産出された木材を50%以上使用	5.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	内装材と設備が錯綜せずに、それぞれを取り外すことができる	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	PRTR法に該当する有害物質を含まない材料を採用	5.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満かつGWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が50未満)を用いた断熱材等を採用	4.0	1.00	-	-	
	3	冷媒	—	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.8
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率を抑制している	4.5	0.33	-	-	4.5
2	地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	風通しに配慮し、敷地外への熱的な影響を低減	4.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	駐輪場・駐車場及び荷捌き用駐車車両の駐車施設を確保している	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.7	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	風環境解析による評価で立地の階級より一部が上の階級にある	4.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックシートの過半を満足、広告物照明はない	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	3.0	3.0	○	○	－	○	○	○	－	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		－	○	○	－	－	○	－	○	－	○	－	－	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		－	○	○	○	○	－	－	○	－	－	－	○	－
2.4.1 空調・換気設備	－		○	－	－	－	－								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	－	－	－	－	－						
2.4.3 電気設備	1.0	－	－	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	－	○	－	○	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	10.0		2.0	－	2.0	－	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	－	
2 まちなみ・景観への配慮	5.0		2.0	1.0	－	－	1.0	1.0							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0		－	1.0	1.0	－	1.0	1.0	1.0	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0		－	2.0	2.0	2.0	－	－	－	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	2.0		－	－	2.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	－	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	14.0		1.0	1.0	1.0	3.0	2.0	－	－	3.0	3.0	－			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	－	1.0	1.0	1.0	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	－		－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)			
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値 0.4	η AC 1.6	η AH	
昼光率	1.4%				
自然換気有効開口面積率	15.8%				

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	－	/人	病床	－	/床	シングル	－	ツイン	－
コンセント容量	－	VA/m ²							
天井高	2.42 m								
リフレッシュスペース	－		レストスペース	－					
想定耐用年数	75 年								
想定必要間隔	－	年							
想定必要間隔	20 年								
想定必要間隔	－	年							
階高	2.86 m								
壁長さ比率	41.0%								
床荷重	1800 N/m ²								

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	36%	建物緑化指数	0%				
空地率	62%	水平投影面積率	21%	地表面対策面積率	26%	舗装面積率	0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m		－ 断熱等性能等級		等級4を超える 相当					
自然エネルギー直接利用量		－ MJ/年㎡		採光を満たす教室数		－ 採光を満たす住戸数			
				通風を満たす教室数		－ 通風を満たす住戸数			
BPI/BPI _m		非住宅		－ 住宅		0.78 太陽光 45.5kW 太陽熱等		－ 蓄電池	

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	－			
特定調達品目	ビニル床タイル	エコマーク商品	屋外用品エクステリア指定品目等	－
使用比率	100.0%			
オゾン層破壊係数(ODP)	－	地球温暖化係数(GWP)	－	
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3	
オゾン層破壊係数(ODP)	－	地球温暖化係数(GWP)	－	

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		61% 隣棟間隔指標Rw 1.89							
地表面対策面積率		38.8%	屋根面对策面積率		0.0%	外壁面对策面積率		0.0%	
見付面積Sb		398㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		108.51 m	基準高さHb		6.03 m	
緑地	451㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡